

## リスク検出（柱3）に関する取り組みご紹介

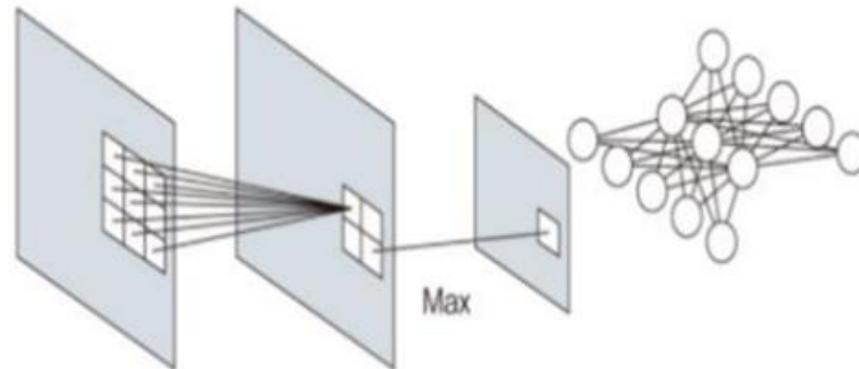
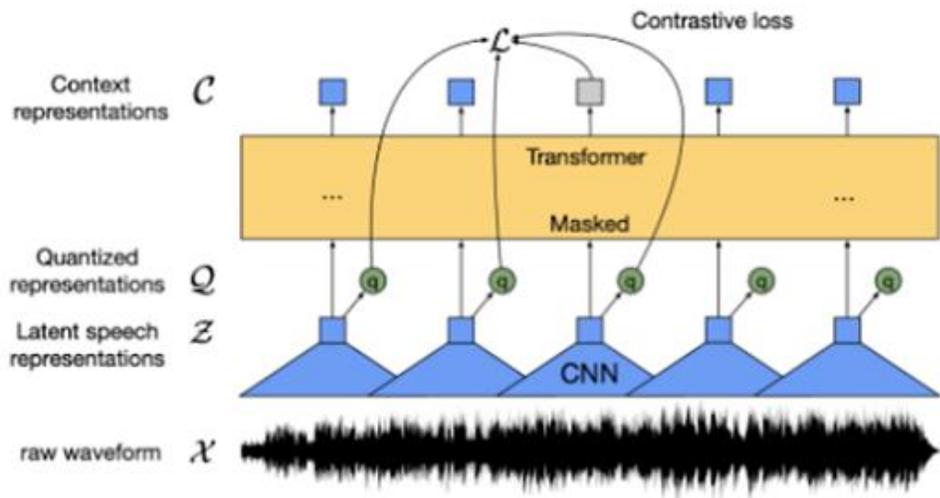
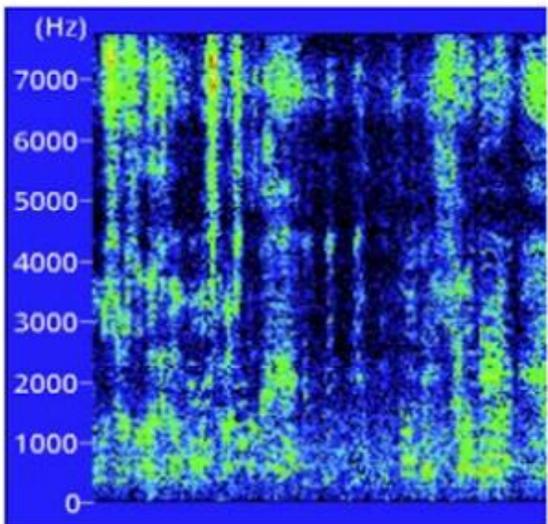
---

2025年1月29日

i2medical合同会社

業務執行役員 古賀 文浩

# 音響学的な特徴を用いて認知機能の低下リスクを推定するAI



機械学習アルゴリズム  
にて解析

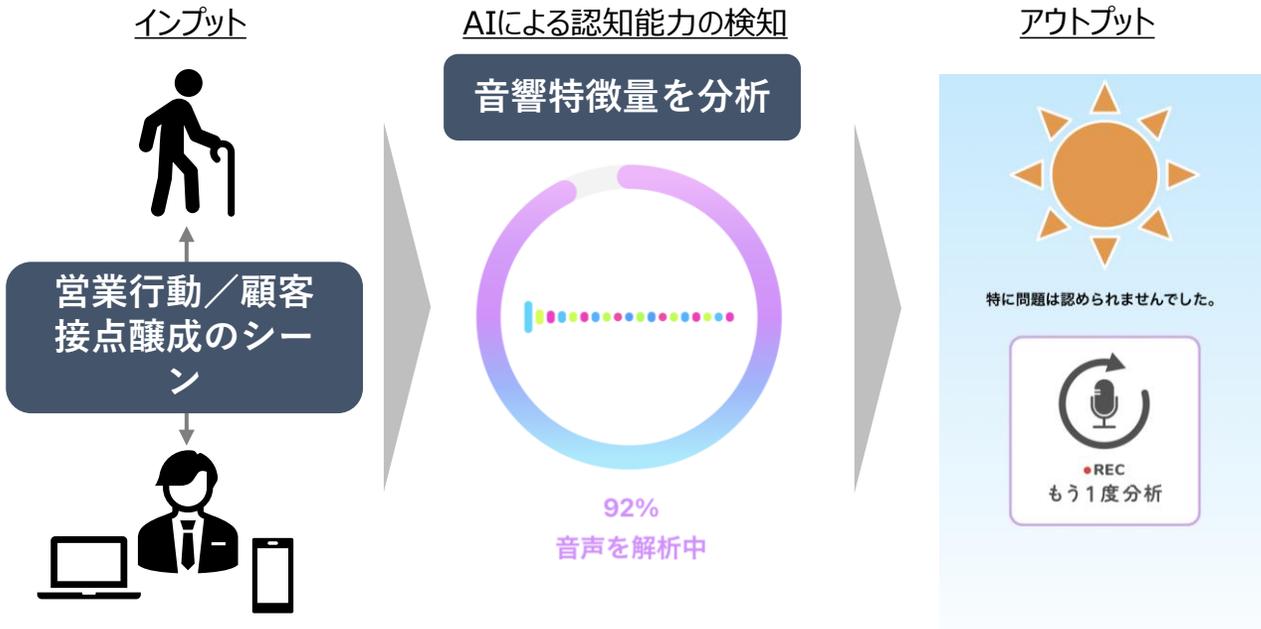
結果を  
DBに保存



メモリ上で音声ファイルの作成  
※ファイルUP後削除



音声ファイルの保存



- AI単体で能力有無を判断せず、  
使用者（ここでは金融機関職員）の判断補助ツールとして作用する
- 営業シーンにおける穏やかな気づきを与え、  
適切な営業行動に変容を与えるトリガーとする

## 1 対面での接客を開始

職員

本日はお時間いただきありがとうございます。よろしくお願ひ致します。



こんにちは。  
はい、お願いします。

顧客

## 2 音声利用の許諾 日常会話を行う

〇〇様に適切な商品紹介をするために、会話内容を録音させていただきます。75歳以上の皆様にお願ひしております。

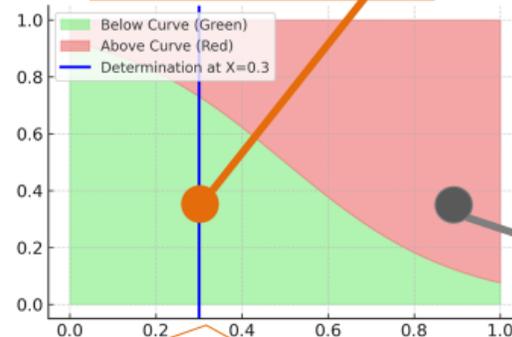
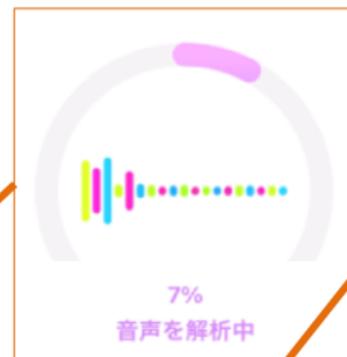


わかりました

この商品にご興味をもたれたのは～… (日常会話)

## 3 接客担当者の画面で分析表示

音響学的特徴により  
金融判断能力を数値で表現



AI信頼度と分析結果を表示

## 4 分析結果をもとに接客内容を変容

各金融機関の基準に従い  
勧める金融商品を選択



各金融機関の基準に従い  
安全な金融商品を選択

# 検証用モックご紹介

16:20

76

i2medical



特に問題は認められませんでした。



●REC

もう1度分析

ああ demov3.acognition.jp



# 検証の考え方

- 作られたシステムが、現場運用に乗るものであるか
  - L 現状システムを使用した、**シナリオに沿った**ウォークスルーテスト
  - L 業務フローの改善点／システムの改善点を洗い出し、次の改修へつなげる

## 検証ポイント1

開発された技術・サービスが実運用にきちんと乗るか

営業対象者（高齢者）の負担とならず、  
営業活動に支障の出ない運用設計

## 検証ポイント2

適切なシステム設計及び開発

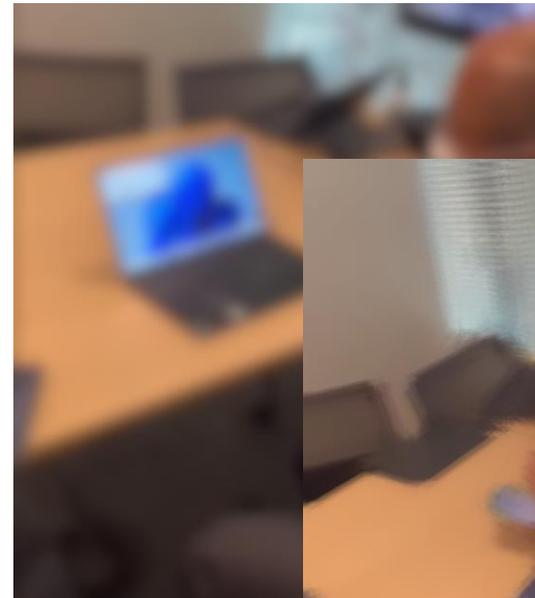
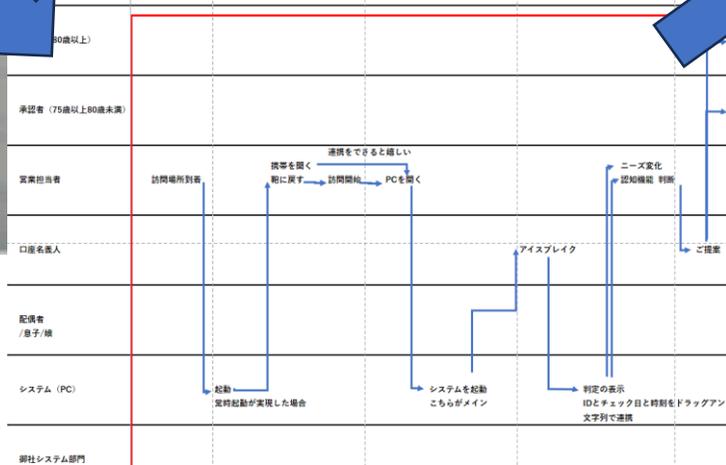
実運用上レスポンス可能な試作システム（API、サーバー、アプリケーション）の構築

# 検証のポイント

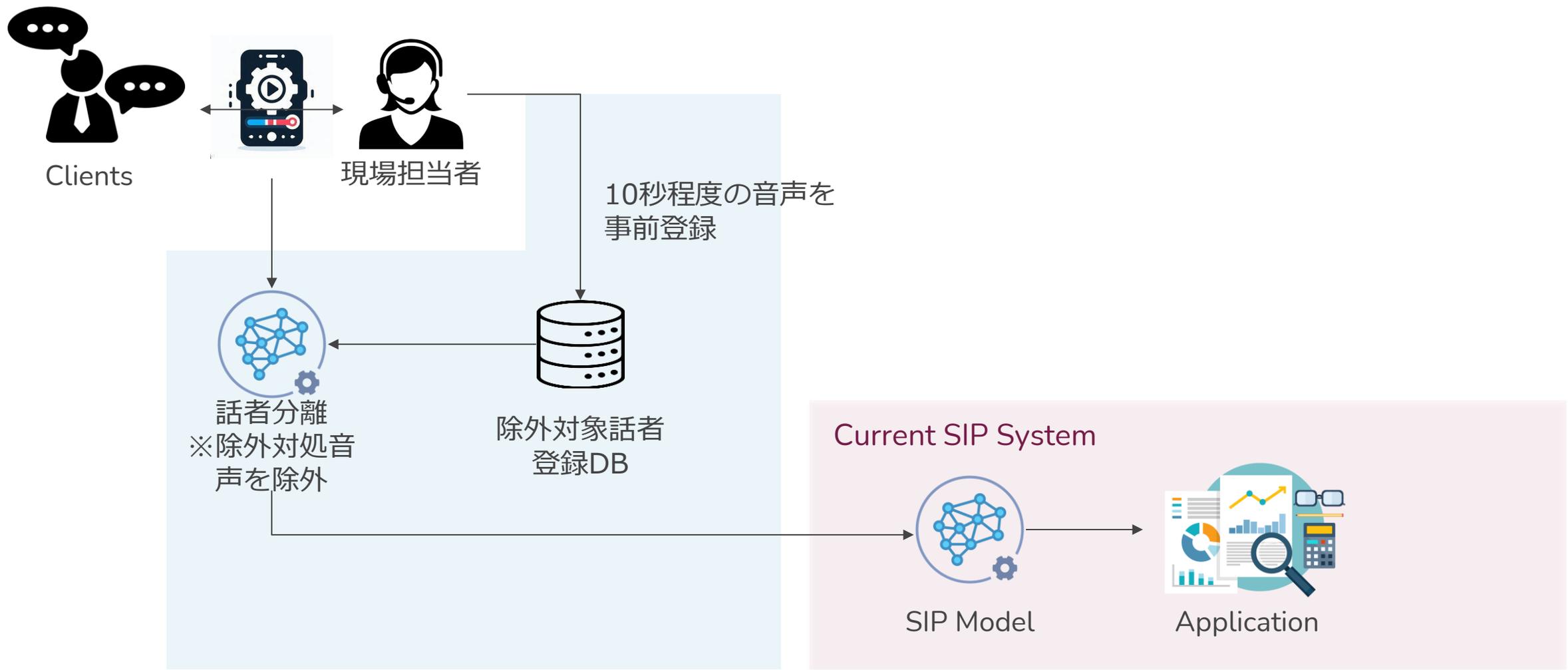
検証すべき  
業務シナリオの策定

ウォークスルーテスト  
(テスト実施)

振り返り／分析



# Appendix:話者分離技術\_ご紹介



# Appendix: i2medical合同会社のご紹介

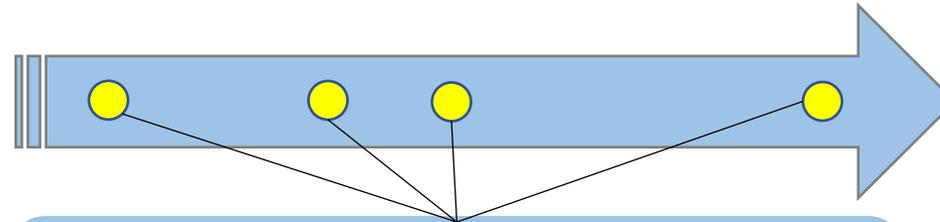
慶應義塾大学医学部精神・神経科学  
教室 領域横断イノベーション  
精神医学研究室 (i2Lab)

役割

開発／研究

- ・ 医療研究をもとに発明
- ・ 特許を取得

研究室代表 岸本泰士郎らが設立



**i2medical社**



役割

社会実装までの  
道のりに伴走

- ・ 発明／知財のシステム実装
- ・ 使われ方を想定した機械学習

- ・ 社会実装
- ・ 世の中で幅広く  
発明が使われている  
状態の実現

2019年設立

データサイエンティストを抱え、精神医学にお  
ける、

- ・ AIアルゴリズム開発
- ・ センシングデータを活用した分析  
に強み。